

# 自主防災の大切さを強調

## 飯田市の 飯田市の 益城町での被災地支援報告

飯田市は10日、地域の自主防災リーダーの養成を目的とした研修会を同市高羽町の飯田文化会館で開いた。熊本地震で大きな被害を受けた熊本県益城町に今年3日まで派遣された市危機管理室防災係長の後藤武志さん(46)が、現地の支援活動を報告。市内各地区の自主防災会や消防団、赤十字奉仕団などから約300人が参加し、災害への備えや自主防災の重要性を再確認した。

後藤さんは、新潟県 機能が分散し、関係機 避難所運営に割かれ、 中越地震で被災地支援 関の連携が取りづらい 罹災証明書発行準備 を行った自治体などで 構成する「中越大震災 ネットワークおじや」

(事務局・新潟県小千谷市)の先遣隊として、4月26日に熊本入り。被災者が公的支援などを受ける際に必要な罹災証明書の発行に向けた情報収集や態勢づくりの調整を行った。到着初期の様子は「役場庁舎が損壊して



飯田市の自主防災リーダー養成研修会

況も振り返り「住民や避難者たちが」できることは自分たちで行うことで復旧も早まる。限られた人的資源をどう分配し、活用するかが大切と呼び掛けた。「目の前の課題に対処するだけではほとんど後手になる。2、3日先を見通し、手を打

つことが被災者らの安心感にもつながる」と指摘。滞在期間中は「すべてをやってあげては現地にノウハウは残らず、この先も回っていかないと」として「あくまで支援」の姿勢に徹したという。震度7の揺れが続けて起きた熊本地震の特徴も踏まえ、経験則や想定を超えた備えの大切さも訴えた。大規模災害で飯伊のライフラインである中央道が不通となり、物資や人的支援が届かない事態を例示し、備蓄など事前対策を見つめ直すよう求めた。

### 熊本地震へ義援金

#### 阿智第二小と伊那華が

熊本地震の被災地を支援しようと、阿智村の阿智第二小学校5年生児童と昼神温泉郷の湯多利の里伊那華の「タケノコ採り応援隊」が12日、村役場を訪れ、それぞれの活動で集めた募金を阿智日

赤奉仕団(櫻井あけ美委員長)に届けた。このうち、阿智第二小5年生19人は、「熊本の大地震をテレビで見ながら自分たちでできることをやろう」とシイタケ栽培や農産物の収益金1万円を寄付。シイタケは自分たちで原木に菌打ちし、収穫したものを干しシイタケに加え、バックに詰めて販売、売り上げは3300円になった。さらに昨年、ダイコンや小麦などを栽培して阿智祭や伍和敬老会などで販売した収益の残りを加えた。一方、伊那華の従業員有志でつくる「タケノコ採り応援隊」は大規模連休に合わせ、同館とお宿山翠のフロントに募金箱を設置してお礼に採れたタケノコを配る「タケノコ募金」を実施。集まった募金約6万2000円を余に、同館の上原政起会長(79)が同額を加え計12万5000円を寄付した。代表の玉置文保さん(64)は「予想以上に協力してくれた」と語った。



農林産物の収益を手渡す阿智第二小児童

#### 熊本救援托鉢 34万円集まる

長野教区伊那組浄土宗青年会はこのほど、4月25日から30日までの6日間、高森町のショッピングセンターパース店頭で行った「熊本地震救援托鉢」に寄せられた34万1153